

クラシック音楽の楽しみ方 第17回

会員 高橋 善彦

今回は総譜(そうふ)についての話です。

英語ではフルスコア (fullscore)、またはスコア (score)、独語ではPartitur、伊語ではpartituraです。音楽に登場する全ての楽器、パートをまとめて記譜したものです。作曲者や編曲者が音楽の総譜を作り、総譜から各パート譜面を用意します。指揮者、演奏者ともに曲の全体を把握するために、一般に出版されている総譜を利用し勉強しています。

次の譜例は、Beethovenの交響曲第9番“合唱付き”の第4楽章の冒頭です。

Finale
Presto $\text{♩} = 66$

Flauto piccolo
Flauto I
Flauto II
Oboe I
Oboe II
Clarinetto I in Si b/B
Clarinetto II in Si b/B
Fagotto I
Fagotto II
Contrafagotto
Corno I, II in Re/D
Corno III, IV in Si b/B basso
Clarino I, II in Re/D
I Alto
Trombone II Tenore
III Basso
Timpani in Re/D - La/A
Triangolo, Cinelli e Gran Tamburo
SOLI
Soprano
Alto
Tenore
Baritono
CORO
Soprani
Alti
Tenori
Bassi
Violini I
Violini II
ViOLE
Violoncelli e Bassi

1. スコアの楽器配置

上から木管楽器、金管楽器、打楽器、鍵盤楽器、声楽(独唱、合唱)、弦楽器の順番で配置しています。そして、それぞれの楽器群では音域の高い楽器を上に配置しています。もちろん、例外はあります。

木管楽器は、上から Flute, Oboe, Clarinet, Fagottoの順となります。音域の高い Piccolo は原則から Flute の上に配置します。しかし、例えば、Flute の第2奏者が、Flute と Piccolo を持ち替えて演奏する曲は多くあり、この場合 Piccolo は第1 Flute の下、第2 Flute の位置に配置する場合があります。

English horn (Cor anglais) は Oboe より音域が低く、第2奏者が持ち替えることも多い為、原則通り Oboe の下に配置します。左の第九の例を見ると、木管群の一番下に Fagotto のオクターブ下の音域を持つ Contrafagotto があります。原則通り Fagotto の下に配置しています。

金管楽器は、Horn (Corno), Trumpet (Clarino), Trombone, Tuba の順番で配置しています。現在の楽器では Horn より Trumpet が高音域ですが、古典派からロマン派の期間、金管の中で、Horn は木管楽器に近い役割を担当する曲が多いことから、伝統的に Horn を木管に近い上に配置しています。Trumpet を Horn の上に配置している作曲家 (S. Prokofiev, D. Shostakovich など) の例もあります。

打楽器は Timpani が音程を持つため五線を使い、上に配置し、大太鼓などの他の打楽器を下に配置します。そして、打楽器群に続いて、鍵盤楽器 (Harp, Piano, Celesta, Organ など)、声楽 (独唱 (solo, soli), 合唱 (coro))、独奏楽器 (協奏曲) を配置します。

弦楽器は、第1 Violin, 第2 Violin, Viola, Cello, Contra-bass の順番で配置します。

Beethoven 以前の曲では、Cello と Contrabass を分離して使っていない場合が多く、Bassi (basso の複数形) として同一に扱っています。

Mozart 以前の音楽では、通奏低音 (basso continuo) として、Cello と Contrabass は Cembalo や Organ などと同列に、低音楽器の選択肢の一つとして、個別の楽器名を表記していません。

2. 移調楽器

前の第九の例を見ると、Flute, Oboeには、 \flat が一つ付いています(d-Moll;ニ短調)が、Clarinettoには \sharp が一つ付いています(e-Moll;ホ短調)。これは、d-Mollとe-Mollが同時に鳴る訳ではありません。このClarinettoは、譜面のドの音を吹くと、実際の音はドより1音(全音)低いB(\flat の付いたシ)の音が鳴る楽器を使います。このような楽器を“B管のクラリネット”と呼びます。楽器の鳴る音が1音低いので、1音高い音を吹く必要があります。そこで譜面は1音高く書きます。例えば、d-Mollの曲は、1音高いe-Mollで書いた譜面を用意します。これで同じ音が出ます。このような譜面の音と実際の音が異なる楽器を“移調楽器 Transposing instrument”と呼びます。

実際の音(実音)



B管のクラリネット用の譜面



in Bと書いて、B管用の譜面で、実際の音より1音高く記譜していることを明記します。

木管楽器の移調楽器には、B管のクラリネット以外、A管のクラリネット、F管のイングリッシュホルンなどがあります。

金管楽器は、ヴァルブの無い時代の名残から、多くの調性に対応する管のHornとTrumpetの楽器があります。HornとTrumpetは、曲の調性に一致した管、例えばD-Dur;ニ長調の曲にはD管の楽器を使い、Es-Dur;変ホ長調の曲にはEs管の楽器を使います。

3. オクターブの移調楽器

Piccoloは譜面の音よりオクターブ高い音が出ます。Contrafagotto, Contrabassは譜面の音よりオクターブ低い音が出ます。

4. スコアを見比べる ➡ 印の箇所

次の譜例は、Beethovenの交響曲第9番“合唱付き”の第4楽章、バリトン独唱がO Freundeと歌い始める直前です。前の第4楽章の冒頭と見比べてみると、冒頭で弦楽器は演奏していないことが判ります。同じ様に聞こえる箇所ですが、Beethovenは差を付けています。

5. 指揮者とスコア

指揮者はスコアを使って、自分の音楽を具体化します。曲や拍のテンポの構成、音の感触、強さとバランス、音楽のプレスなどなどを思い浮かべます。そして、気になる箇所には、スコアにマークなどを書き込み、オーケストラとの練習に備えます。そして、演奏家達と協演した音楽や評価や課題を、指揮者の考えを通してスコアに反映し、書き込みは増えていきます。